

ご挨拶

岩手県立水沢高等学校創立百周年記念事業協賛会

会長 及川 源悦郎



この度、本校が創立百周年を迎えましたことは、まことに喜ばしく、岩手県立水沢高等学校創立百周年記念事業協賛会を代表してご挨拶を申し上げます。

平成二二年一〇月一六日の記念式典では、多数のご来賓、同窓生各位、保護者の皆様、教職員の皆様、在校生諸君と、千四百人にのぼる方々が一堂に会しまして、Zホールにて盛大にお祝いをいたしました。この記念事業を推進するに当たり、奥州市、金ヶ崎町を始めとして市内の企業体、同窓生各位から多くのご寄付を賜り、そのお陰をもちまして、記念事業を推進できましたことに衷心より感謝を申し上げます。

本校は明治四四年四月に胆沢郡立実科高等学校として創立して以来、時代の要請と進展に伴い、大正一五年には岩手県立水沢高等女学校となり、昭和二三年には学制改革により県立水沢中学校及び県立水沢商業学校との統合、そして商業科及び各分校の分離独立、さらには昭和四四年には理数科の設置など、幾多の変遷を重ねながら、百年の歴史を刻んで参りました。昭和五二年には現在の岩手県立水沢高等学校の白亜の校舎が落成し、併せて志學館の建築など環境整備を進め、県南地域の学究活動のセンターとしての役割を果たして参りました。

本校の百年間の歴史を顧みるとき、卒業生は二万名を越え、社会に有為な人材を多数輩出して参りました。このような優れた諸先輩方を仰ぎ見るにつけ、本校の優れた教育環境のありがたさを実感するところです。これもひとえに、これまで本校を支え続けて下さった関係各位並びに歴

代の校長先生、教職員、保護者の皆様のご指導と愛情、さらには地域社会からの期待、そしてそれに応える生徒諸君の奮起があったからこそとしみじみと感じる次第です。

今日の社会は変化が大きく、ボーダレス化が進展しています。私たちには現実に即応する能力と、揺らがない精神が求められます。「友愛・清新・気魄」をモットーとし、文武に渡って日々精進を重ねる本校で培われた能力と精神が、今後の社会では一層重要となります。そのような中で、本校は、いよいよ新しい世紀を迎えます。これまでの水高の歴史を鑑み更なる飛躍のために、今後の生徒諸君の活躍に期待するとともに、関係する皆様のもこれまで以上のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

最後に「我が母校」水沢高校の躍進を心から祈念し、ご挨拶の言葉といたします。

ご挨拶

岩手県立水沢高等学校創立百周年記念事業協賛会

記念事業実行委員長 長野耕定



この度は、水沢高等学校が創立百周年を迎え、名実ともに伝統校となりましたことは、まことに喜ばしく、これまで本校をご卒業なさった同窓生各位、PTAの方々、本校を支えてくださった多くの方々とともに心よりお祝いを申し上げます。また、この創立百周年記念事業を推進するにあたり、奥州市、金ヶ崎町、企業体、現・旧職員の皆様、同窓生諸氏、関係各位から、多大なご支援を賜りました。そのお陰をもちまして、この記念事業が滞りなく進められましたことをここに報告申し上げますとともに、衷心より御礼申し上げます。

さて、この記念事業協賛会は平成一七年一〇月二日に「創立百周年記念事業推進委員会設立準備会」という仮称で実質的な活動を開始いたしました。以後一〇回以上の会議とそれに伴う様々な協議を重ね、平成二〇年一月一八日に、「岩手県立水沢高等学校創立百周年記念事業協賛会」として正式に発足いたしました。併せて、募金、建設、記念誌編集、式典、祝賀会・行事の五つの専門委員会を立ち上げ、同窓会とPTA、学校とが連携してこの事業を推進する体制が整い、各委員会ではたくさんの方々関わって、精力的に活動していただきました。

この度の事業の大きな柱となったのが、多目的屋内運動場の建築でした。八〇周年記念事業では志學館を建設し、生徒諸君の学力向上に資することができました。文武両道を標榜する水沢高等学校として、「武」の部分の強化が学校としての課題であり、全天候対応の運動場の実現が望まれていたのです。そこでそれを現実のものとするべくこの協賛会も全力を挙げて参りました。

そして、水沢高等学校を支えてくださる皆様のお力添えのお陰を持ちまして、平成二二年九月に「昇龍館」と命名した屋内運動場が完成し、翌一〇月一六日には創立百周年記念式典がZホールを会場に厳粛な中にも盛大に行われ、水沢高等学校の歴史を振り返り、今後のより一層の飛躍を誓ったのでした。

この記念事業では、単に屋内運動場を建設するばかりではなく、ノースカロライナ州立理数高校との交流事業や、この記念誌を編纂するなどの活動も進めて参りました。これらの諸事業を振り返るにつけても、偏に皆様のご厚情の賜物と、改めて感謝の念に堪えません。

これから水沢高等学校は新しい世紀にその一步を踏み出します。水高生にはさらに精進を重ね、新たな伝統を築き上げながら、有為な人材として広い世界に羽ばたいて行ってほしいと念願しています。そして、水沢高等学校がますます素晴らしい学校として発展してゆくことを祈念し、ご挨拶いたします。



岩手県立水沢高等学校創立百周年記念式典

式 辞

岩手県立水沢高等学校校長 佐藤 成人

秋高く、爽やかな今日の、この佳き日に、ご来賓、関係各位、旧職員、同窓生、並びに保護者の皆様のご臨席を賜り、岩手県立水沢高等学校創立百周年記念式典を挙行できますことは、教職員、生徒一同にとりまして、この上ない喜びであり、感激に堪えないものであります。心より御礼申し上げます。

明治四四年四月一五日に、胆沢郡立実科高等女学校が創立され、以来、県立移管や校名変更を経つつ、当地域の女子教育を担って参りました。

また、地域の長年の熱意と努力が実を結び、岩手県立水沢中学校が昭和二一年に設置されました。

そして、昭和二三年の学制改革により、県立水沢高等女学校、県立水沢中学校、県立水沢商業学校が統合し、全日制普通科と商業科に、定時制中心校・分校を併設する、岩手県立水沢高等学校が発足しました。

昭和二九年に商業科が岩手県立水沢商業高等学校として独立する際に、定時制中心校も同校に移管され、翌三〇年は黒石分校が岩手県立水沢農業高等学校に移管されました。金ヶ崎分校は四年に岩手県立金ヶ崎高等学校として独立しました。

昭和三四年に南都田分校と若柳分校が統合して発足した胆沢分校は、五〇年に岩手県立胆沢高等学校として独立し、創立以来六一年の歴史を刻んでまいりましたが、平成二〇年四月に本校と統合し、本年三月をもって廃止となりました。

本校にあつては、昭和二七年に龍ヶ馬場に校舎が完成し、全生徒が集い、勉学に勤しむことになりました。四四年に理数科設置、翌四十五年は創立六〇周年記念式典を挙行。四九年には現在

の校舎の建築に取りかかり、五二年に落成しました。これに前後して、弓道場、柔剣道場、奏龍館、白龍館等の建設、テニスコートやグラウンドの整備、中庭の造園など、教育環境の整備が進められました。

平成二年には八〇周年記念館志學館が、九〇周年の平成一二年にはセミナーハウス水龍館が建設されました。

平成一五年に文部科学省からスーパー・サイエンス・ハイスクールに指定され、理数科を始め、普通科においても、特色ある理数教育に取り組み、課題を解決するための思考力、判断力、表現力など、「生きる力」の育成を図っております。

そして、創立百周年を迎えた本年、屋内運動場「昇龍館」を建設して頂き、先月完成を見ました。

このように、本校は、幾多の変遷を経ながら、胆江地区をはじめ、県南部の中等教育の一翼を百年にわたって担って参りました。

その間、本校から、県と国の内外を問わず、あらゆる分野に、有為の人材が輩出し、活躍していることに思いを至す時、本校の教育振興に情熱を持って当たられた歴代校長を始めとする教職員の尽瘁に対して、深甚なる敬意を表します。その薫陶を受けて、真摯に努力を重ねられた卒業生の皆様に対しても、深く敬意を表します。

本校がこのように発展し、創立百周年を迎えることができましたことは、偏に、本校に対し、ご理解とご支援、そして変わらぬご期待をお寄せ頂いた奥州市や金ヶ崎町を始めとする県南各地域の方々のご厚情の賜であり、改めて衷心より感謝申し上げます。

さて、生徒諸君。皆さんは本校創立百周年の節目に立つことの幸せを実感して下さい。県下でも類を見ない、広大な敷地と多くの施設は、この百年を掛けて、水高生のために整備されたものであり、水高生に寄せられた期待の表れです。皆さんが、その恩恵を最も享受するのです。

皆さんは応えなければなりません。「友愛・清新・気魄」のモットーの下、校歌の一節にあるとおり、「真と善と美 はげしく求め」て、飛龍第二世紀の幕を開けていくことが、皆さんの使命となります。

終わりに、これまで、本校の発展にご尽力賜りました多くの関係各位に、重ねて厚くお礼申し上げますとともに、更なるご指導とご支援をお願い申し上げます。式辞と致します。



岩手県立水沢高等学校創立百周年記念式典

告 辞

岩手県教育委員会委員長 八重樫 勝

本日、ここに、ご来賓、同窓生、保護者の方々をはじめ、多数の皆様のご臨席のもと、岩手県立水沢高等学校創立百周年記念式典が盛大に挙行できますことは、誠に喜びに堪えないところであります。

本校は、明治四四年四月胆沢郡立実科高等学校として創立しました。そして戦前戦後の混乱期に幾多の困難を乗り越えて、昭和二三年（学制改革により）岩手県立水沢中学校、同水沢高等女学校、同水沢商業学校の三校を統合、岩手県立水沢高等学校として新たに発足し、現在にいたっております。

この間、職員と生徒の創造的な研究と実践により、つねに新たな飛躍を遂げて参りました。戦前は、地域はもとより、広く本県の女子教育の振興に貢献し、戦後も、県南地域の学究活動の拠点校としての地位を築きあげ、県高校教育界の先導的役割を果たして参りました。この、高い教養と実学を重んずる高等女学校の校風は、新制高等学校の新しい教育理念と相俟って、自主自律、清新にして質実剛健、気概に満ちた現在の校風に継承されております。この「水高精神」とも言うべき伝統を、脈々と受け継いできた卒業生は現在二万名を超え、高い理想と広い視野、確固不拔の信念を持ち、国内はもとより世界中の様々な分野において活躍しております。これはひとえに、創立以来の歴代校長をはじめ、教職員並びに生徒諸君のたゆまぬ努力の積み重ねの結果であり

るとともに、同窓会、PTAをはじめ地域の方々の並々ならぬご支援の賜であり、ここに改めて深甚なる敬意と感謝の意を表します。

さて、当地奥州市は近世より偉人の街として知られ、日本の歴史に偉業を残した多くの人材を輩出しております。また、本校は、三万坪の広大なキャンパス、緑に囲まれた白亜の校舎、八〇周年記念の志學館、及び、このたび完成した昇龍館など、東北にも例がないほどの、恵まれた環境にあります。このような豊穡な風土とすばらしい環境に育まれる本校の将来は、ますます光彩陸離たるものと期待されます。とりわけ、平成一五年には文部科学省によるスーパーサイエンスハイスクールとしての指定を受け、今年で通算八年目を迎えますが、その取り組みと成果は県内外から高く評価されております。また、今年度からは、さらに先進的理数教育拠点校として、全国的な規模での共同研究にも取り組んでおります。

二十一世紀の現在は、様々な価値観が混在し、高度情報化や国際化、技術革新等が進行するなど、かつてない激しい変化の時代であります。このような変革の時代にあつて、これからの学校教育に求められるものは、豊かな人間性や社会性を有し、問題解決能力にすぐれ、国際社会に活躍できる若者の育成であります。燦然と輝く人材が輩出したこの地、この学舎から、独創的かつ情報発信能力に優れた人材が飛び立つことを、念願するものであります。

百周年というこの節目の年に集うことのできた生徒の皆さんには、水沢高校で学ぶ喜びと誇りを強く意識すると共に、先輩が築きあげた真理追究の伝統を継承し、「友愛・清新・気魄」の校訓のもと、さらなる飛躍と活躍を願って強くおります。

結びに、本日の記念式典に当たり、関係各位の長年にわたるご支援ご尽力に対し、深く感謝の意を表しますとともに、岩手県立水沢高等学校の新たな百年への躍進を記念し、告辞といたします。

御祝と御礼

岩手県立水沢高等学校 前校長 伊藤 勝



水沢高等学校が百周年の佳節を迎えるにあたり、卒業生、関係の方々にお祝いを申し上げますとともに、これまでお力添えをいただいた多くの方々、とりわけこの周年行事にご尽力賜った、各委員会の委員各位、教職員、何よりも生徒諸君に御礼を申し上げます。

学校は空間にすぎない、建物が存在するだけでなにかが生じる訳ではなく、その時点時点に所属する者の不断の営為が結果として集積されるのであり、学校の伝統は関わった全ての方々の努力の総和としてあるのだ、そんな思いを抱いた式典でありました。

自ら顧みて、本校に勤務してその職責にもとるところはなかったか、そう自戒を抱いたところでもあります。

周年行事は、皆様のお力添えをいただき素晴らしい秋の一時となりました。生徒に風雨の憂いなく活動できる場を準備してやりたい、この願いから整備された屋内運動場は、全ての運動部が利用できる場として、また、体育の授業でも有効に活用するなど所期の目的を十分に果たしていると聞き及んでおります。

これら事業の経済的裏付けを多くの皆様にご協力賜りました。

当初は昨今の状況を反映してか危惧される実態にあり、事務局は、無礼でありご不快をおかけすることを承知しながら、再三にわたり文書を出せざるを得ませんでした。ご海容をお願いする次第です。お陰様で関係事業を全うできる状況にあると伺っているところであり、改めて篤く御礼申し上げる次第です。

一世紀を閲し、第二世紀へと歩を進める本校ですが、故郷そして世界のこれまで以上の大きな変動も予想されます。どんな時、場にあっても「真善美」を求め、理想を高く掲げその実現に毎日を努力する、そんな本校生徒、卒業生であることを信じているところです。

水沢高校の一層の隆昌を祈念し、お祝いと御礼迄申し述べます。